

## ロジバルエクスプレスがドライバーのキャリアプランを導入

ロジバルエクスプレス（本社・東京都葛飾区、馬場範夫社長）では、ドライバーの「定年制」を含むキャリアプランを3年前から導入している。年を重ねることで、視力や体力が衰えることが避けられないため、安全の確保に配慮したものの、ドライバーのキャリアアップを促進するの狙いだ。

ドライバーは乗車している車種を問わず53歳になった年度で、いったん「定年」となる。過去の勤務実績などを考慮して、1年ごとに最長2年間は更新できるが、55歳には完全にトラックを降りなければならぬ。

「定年」後は、運行管理や配車担当、管理職、商品管理などに従事する。船橋営業所（千葉県船橋市）で手掛けている自転車の組み立て作業を担当する者もい

る。ドライバーが引退後も会社の貴重な「戦力」となることを人事制度で明確に示したものだ。

「定年制」の導入に際しては、トラックを降りることの寂しさや「残業手当が減ってしまう」などの理由から、最初は抵抗もあった。キャリアプランの趣旨を丁寧に説明したという。また、運行管理専任者手当ての額を引き上げるなど、待遇でも環境整備も図った。

柴田昇常務によると「定年制の導入で優秀なドライバーが離れてしまうのではないかと不安も大きかったが、定年制を理由に退社したドライバーはなかった」「運行管理や点呼は、ドライバーの気持ちが一番よく分かっている経験者が行うのが望ましい」と安全管理の充実に期待を寄せる。